

児童虐待防止 児童発達支援評価表

○本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従事者のために、事業所の自己評価するためのものです。
【注1】又は「ない等」のどちらかに記入することとし、従事者の観点で、「事業所の工夫している点(等)」や「改善が必要と思われる点」を記入してください。

Table with 5 columns: No., 評価項目 (Evaluation Item), 評価 (Evaluation), 理由 (Reason), 工夫している点(等) (Improvement Points). Rows 1-53 cover various aspects of childcare and support services.

保護者向け 児童発達支援評価表

(保護者の皆さまへ)

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。  
「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。						
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。						
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。						
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。						
	保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。					
		13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。					
		14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。					
		15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。					
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。							
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。							
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。							
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。							
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。							
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。							
22 個人情報取り扱いに十分に留意されていると思いますか。							
非常 時 等 の 対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、初動マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。						
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。						
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。						
	26 事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。						
満足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。						
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。						
	29 事業所の支援に満足していますか。						

※1 本所にわかりやすく構造化された環境とは、こども本人がどの部屋で何をするのかわかりやすいよう、机や本棚の配置なども工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「児童発達支援計画(個別支援計画)」は、児童発達支援を利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上で留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Feed Parla		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 27日		2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を強みとしており、子どもたちがのびのびと身体を動かせるよう、十分な活動スペースを確保している。安全面に配慮した環境の中で、発達段階や特性に応じた運動支援を行うことで、運動への意欲や達成感を育むことができている。	確保している活動スペースを効果的に活用するため、運動療育の目的やねらいを意識しながら支援内容を組み立てている。また、日々の活動を通して見られる子どもの成長や変化について、保護者へ分かりやすく伝えることを心がけ、支援内容への理解が深まるよう意識的に取り組んでいる。	子どもの年齢や特性に応じた運動内容や活動量の調整を継続するとともに、活動スペースの活用方法についても定期的に見直しを行っていく。集団活動と個別活動を目的に応じて使い分けることで、より一人ひとりに合った運動療育が提供できるよう工夫し、安心して参加できる環境づくりと支援の質の向上を図っていく。
2	保護者や学校、他事業所等の関係機関と日常的に情報共有を行い、家庭・学校・事業所が同じ方向性で子どもを支援できる体制を整えている。連絡帳や口頭でのやり取りを通じて、日々の様子や変化を丁寧に把握し、支援内容に反映させている点が当事業所の強みである。	保護者や関係機関との連携を深めるため、支援の目的や成果を分かりやすく共有することを意識している。特に、支援計画や成長の変化について共通理解が図れるよう、日々のやり取りや情報共有を大切に、関係者全体で子どもの成長を支えていける体制づくりに取り組んでいる。	日々の送迎時や連絡帳を活用した保護者とのコミュニケーションを継続しながら、情報共有の内容や方法についても見直しを行っていく。また、学校や他事業所等の関係機関との連携をより一層意識し、子どもの生活全体を踏まえた情報共有を行うことで、支援の継続性や一貫性が高まるよう取り組んでいく。
3	少人数制の支援体制を採用することで、一人ひとりの特性やその日の体調、気持ちの変化を細かく把握し、個々に応じた関わりを行っている。安心して過ごせる環境の中で、成功体験を積み重ねる支援ができている点が当事業所の強みである。	少人数制の特性を活かし、子ども一人ひとりの成長や変化を丁寧に整理し、職員間で共有することを意識している。また、支援の意図やねらいについても保護者へ伝えるよう心がけ、家庭と連携しながら支援内容の質を高め、取組を行っている。	日々の支援において、子ども一人ひとりと向き合う時間を引き続き大切にしながら、声かけや関わり方についても職員間で振り返りを行い、より適切な支援につなげていく。また、気づきや情報の共有を継続し、その日の様子や状態に応じた柔軟な支援が行える体制を整えることで、少人数制の強みをさらに活かした、安心感のある支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動療育を強みとしているため、学習面や生活面への支援の取組について、保護者や関係機関に十分に伝わりにくい場合がある。	運動療育を事業所の特徴として前面に出していることにより、支援内容が運動中心であるとの印象を与えやすいことが要因と考えられる。	今後は、個別支援計画や日々の報告を通じて、学習面・生活面への支援も含めた支援全体の内容を丁寧に説明し、理解を深めてもらうための工夫を行っていく。
2	子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を行っているが、その成果が短期間では数値や目に見える形で表れにくい場合がある。そのため、支援を継続する中で見られる小さな変化や成長の過程が、保護者や関係機関に十分に伝わらず、支援の効果が分かりにくいと感じられることがある。	運動療育や生活面への支援は、継続的な関わりの中で少しずつ効果が現れることが多く、短期間で成果が分かりにくいという特性があることが要因と考えられる。	今後は、個別支援計画に基づいた目標設定や定期的な振り返りを行い、小さな変化や成果も記録・共有することで、支援の見える化を図り、保護者や関係機関との共通理解を深めていく。
3	現在、保護者を対象としたペアレントトレーニングを体系的に実施しておらず、家庭での関わり方や対応方法について、十分な支援が行き届いていないと感じられる場合がある。	日々の支援や送迎時のやり取りを中心に保護者支援を行っているため、体系的なペアレントトレーニングの実施まで十分に手が回っていないことが要因と考えられる。	今後は、保護者面談や情報提供の機会を活用し、家庭でも取り組みやすい内容から段階的に共有するなど、無理のない形で保護者支援を充実させていく工夫が必要である。

## 公表 護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	FeedParla
------	-----------

公表日 令和8年 2月 6日

利用児童数 6 回収数 1

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている と思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリ アフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いま すか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いま すか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いま すか。	1					
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のあ る支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内 容と合っていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観 的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成さ れていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され 、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこ どもと活動する機会がありますか。		1				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等 について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされまし たか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレ ーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行 われていますか。	1					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の 状況について共通理解ができていると思いますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか 。		1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士 の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。ま た、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の 交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされています か。		1				
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備され ているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があること について周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に 対応されていますか。	1					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、初応マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。		1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	FeedParla				公表日	2026 年 2月 6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		訓練室は十分に運動や学習が出来るスペースを確保しています。学習机、衝立など不足していますので計画し調達します。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		人員配置を手厚くするため継続して求人募集を行う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		テナントのため大規模なバリアフリー化は難しいですが階段の段差に対応するスロープの設置を計画します。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		ジョイントマット、カラーボックスの更新など定期的に行い、経年劣化を見ながら更新計画を作成します。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室や静養室をを活用し個別の用途に対応しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		月最低1回担当者会議及び支援会議を行い職員間で議論しています。職員間で情報共有しPDCAサイクルにつなげ改善に努めて	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日頃からラインなどでご意見・ご要望をお聞きし保護者向けアンケートにより意向を把握しながら業務の改善につなげています	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		グループラインやミーティングにより日頃から意見交換の機会を作り業務に改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部評価は行っていませんが第三者評価機関による研修を受け仕組み作りを検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資質向上のため部内外様々な研修受講が出来る機会を確保しています。札幌市からの案内研修は積極的に時間を確保しています	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		適切な支援プログラムを作成しており、公表も行ってあります。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		お子さんと保護者の希望を聞き療育中に発生した個別の課題を分析し作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議事前に原案を作成し職員回覧を実施することで各職員に周知し共通認識として検討を行っています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		完成後も職員相互で確認し合い再検討しながら計画に沿って支援を行っています。	
	15	こどもの過剰行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			標準化されたツールを使用しアセスメントを行い各児童の毎日の行動を観察することで確認しています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って具体的に支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月の支援プログラムや行事の計画をチームで立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節に応じた行事や外出行事制作を行っています。また、ダンス、ヨガ、ことば、折り紙、歌と絵本、ボール、SSTなど曜日ごと教室化を図り固定化しないよう工夫しています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援が行われているか。	○		個々の児童ごとの状況に合わせて個別活動と集団活動を合わせて支援計画を作成し支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に当日ミーティングを行い支援内容や役割分担を確認することで連携して支援を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後は当日フィードバックを職員間で行い気づきを共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録をとることで職員間で共有し日々の検証・改善につなげています。	
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行うことで支援計画の見直し図り適時、適切な見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		現状一部の相談支援事業所との連携に留まっていますが状況をよく理解した担当者が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		まだごく一部の関係機関との連携になっていますので今後各児童に関わりのある関係機関と密接な連携を図ります。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		インクルージョンの観点から児童が該当する教育関連の関係機関と概ね情報共有をはかれています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行時の学校等との情報共有は限定的になっていますのでより広範囲に対応し相互理解を深めます	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			北広島発達支援センターの方と密な連携を取らせて頂き、ご利用者の状況を共有しております。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			現状ほとんどできていませんでしたので今後は計画し活動の機会を作ります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			個別ライン、連絡ノート、送迎時に日頃の状況を伝え共通認識を持っています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			現状明確なペアレントトレーニングできていません。今後は有効なシステムなど検討して導入を計画します。	
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時に運営規定や支援プログラム、利用者負担額等について説明を行い、質問等あればその場で答えています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			契約時に本人や保護者の方のニーズを聞き出し、それに基づいた支援を考えています。また、面談時に新たなニーズがあれば、都度支援を考えています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			面談時に支援内容の説明を行い、保護者の方から同意していただいたうえで署名をいただいています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			必要に応じて面談だけではなく、電話やLINE等でも相談を受け付けており、支援方法など

護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		父母の会や兄弟同士の交流する機会は設けたことがないため、今後必要であれば検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		担当者を中心として対応の体制は整備しており相談や申入れがあった場合には迅速かつ適切に対応しています。
	41	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○		定期的な通信は発行できていませんがホームページやInstagramで活動内容を発信しています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		個人情報に記載されている書類等は全て鍵付きの書類に保管しています。廃棄書類等はシュレッダーを用いて破棄しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		状況に応じて視覚支援等を用いて情報の伝達を行ったり、意思の疎通が出来るように努めています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		現在要望等がないため行っておりませんが必要であれば実施していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		定期的に行っております。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		定期的に行っております。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○		薬等の必要な子どもの保護者より、状況を共有し確認しています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		アレルギー等はスプレッドシートで共有しながらいつでも確認出来るようにしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		安全計画に基づいた研修や訓練を行っています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		契約時、面談時に非常時の対応について説明を行っています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○		事案が起こった際ヒヤリハットを作成し原因と予防策等を職員間で話し合い周知に務めます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○		身体拘束当禁止適正委員会を設置し、指針や規定を整備しマニュアルを作成しています。保護者に対しては「重要事項説明書」に記載し、各々に説明を行っています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○		契約時に説明し、重要事項説明書にもやむを得ない場合の定義について記載しています。	